

自由な発想で絵画、工芸作品制作

広がる障害者の芸術活動

絵画や工芸作品の制作など、障害者による芸術活動の場が道内で広がっている。施設での余暇活動といった側面にとどまらず、芸術作品として高く評価する機運も高まっている。こうした障害者の芸術活動を支援しようと、「北海道アールブリュットネットワーク協議会」が昨年、発足したほか、札幌では障害者が自由に参加できるアートワークショップが開かれている。障害者の社会参加にもつながるとして、関係者の期待は高まっている。

(桜井則彦)

道アールブリュットネットワーク協議会

支援する人材育成に力

「北海道アールブリュットネットワーク協議会」は、障害者の芸術活動を支援するため、昨年6月から活動をはじめた。昨年度は障害者の芸術作品の展示会などを開催。本年度は芸術活動を支援する人材育成を目的に研修会を行い、道内各地に障害者の芸術を広めるきっかけとする狙いだ。

同協議会は社会福祉法人「ゆうゆう(石狩管内当別町)社会福祉法人当麻かたの森」かたるべの森美術館(上川管内当麻町)を中心に、道内11の福祉団体を設立した。学芸員など芸術の専門家だけではなく、著作権保護も想定し弁護士らにも参加してもらっている。本年度は芸術活動に関



のりと絵の具を混ぜた画材や、弱い力で描けるクレヨンなどを実際に使って確かめる障害者施設の職員たち

アールブリュット
フランス語で、専門的な教育を受けていない人による「生の芸術」の意味。世界的には障害の有無にかかわらず用いられるが、日本では障害者の芸術を指す場合が多い。

心があり、取り組みを進めたいと考える障害者施設の職員らを対象に、障害者アートの支援のための人材育成研修を導入した。第1回研修会は8月31日、道大岩見沢校で開かれ、道内各地から約30人が参加した。講師は、かたるべの森美術館の創作活動担当の菊地雅子さん。障害者によって手に力が入らなかつたり、動きに制限のある場合もある。菊地さんは「一人一人の握力や手の動き、筆圧などに合わせた画材の提供が必要」と説明した。

旺盛な創作意欲 札幌でワークショップ



（早坂さん）配慮し、参加者には思い切りよく描いてもらった。

参加者は思い思いに指で実際に描いたり、クレヨンの材質を画用紙に描いて確かめていた。

後志管内仁木町の障害者施設の女性職員(53)は「画材などの工夫一つで手の力

が弱い人でも絵を描ける。施設で絵画を取り入れてみたい。岩見沢市の障害者施設の男性職員(29)も「施設での芸術活動に活用できれば、と手心えを感じた様子だった。」

菊地さんは「支援の方法は、施設の種類や当事者の障害の程度により、さまざま。マニュアルはないが、今回の研修を各施設などでのヒントにしてほしい」と強調していた。

今月の研修会では、障害者が参加し、芸術活動の支援の実技を行うほか、10月には作品の展示方法をテーマに実施する。

同協議会では今後、学校や医療機関などとも連携し、芸術活動に興味を抱く障害者の支援や、さまざまな情報提供を行う。芸術活動などについての問い合わせは道アールブリュットネットワーク協議会事務局 ☎0133・222・2896 (社会福祉法人ゆうゆう内)へ。

障害者が自由に参加できる芸術イベントが、札幌で開かれている。「障がいのある人のための『アートワークショップ』」。障害者アートの普及を目指す「一般社団法人 北海道チャレンジドアート&プロダクツ」(札幌)が、今年7月から来年3月まで全9回の計画で開催中だ。参加者は自由な芸術表現を楽しみ、創作意欲を燃やしている。

同法人は障害者アートの関心がある福祉施設や民間企業などで構成。8月21日に札幌市内で開かれた2回目のワークショップには、知的障害者ら5人と、それぞれの親が参加した。和紙に墨や絵の具、フェルトペンで自在に描き、「のれん」を作った。

介護福祉士で美術家の確井良平さん、社会福祉士で学芸員の早坂清花さんが講師を務めた。ともに社会福祉法人札幌協働福祉会の職員だ。二人は画材を手渡したり、和紙以外の部分には描かないよう促したりする程度。「特徴、特性を引き出してあげられるよう」

描いた作品を手掛けた荒関学さん(26)札幌市在住は「また墨で描きたい。おもしろかった」。母親の成子さん(61)も「とりつかれたように創作意欲が続いていました」と笑顔で話していた。確井さんは、こう付け加えた。「芸術活動は表現する力を養うとともに、

心の状態が安定する効果もある」と意義を語る。

北海道チャレンジドアート&プロダクツの加納尚明代表理事は「障害者の芸術活動の裾野を広げていきたい。展示会のほか、作品のデザインを活かした製品の開発などもできれば、障害者の社会参加につながる」と話している。

今回は今年25日午後1時から、OYOYOまちXアートセンターさっぽろ(札幌市中央区南一西6)で梱包材を使った壁掛け、置物作りを行う。参加費千円。事前申し込みが必要。問い合わせは事務局 ☎011・700・5522へ。